

その「物語」の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.088

田中 康夫



たなかやすお ● '56年生まれ。新党日本代表、作家。'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。'09年8月の衆議院選挙で兵庫8区から立候補し当選、1期務める。【公式ブログ】www.nippon-dream.com/



Yai'ssy

アフリカの“食卓を囲む”流儀を今に伝える赤坂の名店

今週の逸品



インジェラコース 3500円

アラビア語とスワヒリ語で旅行を意味するインジェラは次回訪問の日程を告げた上でサファリでは、ドロワットと呼ばれる鶏肉の激辛カレーが評判。辛さは「控えめ」のサファリチキンカレー等も品書きに。気に入ったら4日前迄に2名以上で要予約の

インジェラを次回訪問の日程を告げた上で頼むと良い。インジェラの原料のテフはグルテン分がゼロ。小麦粉アレルギーや炭水化物制限食の食べ手には福音。飲み物は南アのワインも。午餐は800円台。

【サファリ】東京都港区赤坂3-13-1 ヘルズ赤坂2F ☎03-5571-5854
営11:30~15:00、17:00~23:30(LO22:30) 定休:日曜・祭日

illustration by Hajime Anzai



アフリカ大陸へは、ネルソン・マンデラ氏が収監されていたアパルトヘイト時代の27年前に南アフリカへ2週間、写真家の立木義浩氏と赴いたのが唯一。今回のイナメナス人質事件が勃発した、サハラ砂漠からサバンナへと移行する、アラブ世界とブラック・アフリカ

と、それに対処し切れぬ南部のマリ政府に旧宗主国のフランスが前のめりで荷担する構図は、ヴェトナム戦争に於けるアメリカの泥沼化を想起させます。イラクもアフガニスタンも、「白人国家が軍事介入して成果を収めた例は絶えて無いのですから。」

そのマリの中野には、一度訪れたいと僕が切望し続けるバンディアガラの断崖が位置します。独自の創世神話で知られるドゴン族の居住地域。同じモプティ州のサハラ交易の要衝シエンネの泥塗リ巨大モスクと並び、世界遺産に指定されています。神秘的な仮面を始めとする木工彫刻でもドゴン族は注目され、仏独国境のスイスのパルゼルには、ナイジェリアやマリ等のサヘル地域の古美術を専門に扱う美術商が存在します。

スワヒリ語よりも語彙数は豊富にも拘らず、大家族制の「社会」に根ざしたドゴン族の言語では、「収穫をする」、「祭事をする」は同じ言い回しなのだとか。何れの行為も、生きる喜びを実感する瞬間だからでしょう。

大西洋沿岸のセネガルから紅海沿岸のスーダンへと帯状に広がる「サヘル」の東南端に位置するエチオピアの主産インジェラを味わえるのが、急傾斜の階段を2階に上がった赤坂の「サファリ」。

アフリカ最古の独立国エチオピアで栽培されるテフと呼ばれるインネ科の種子を石臼で挽いた粉を水で溶いて発酵させ、クレープ状に焼いたのがインジェラ。発酵の際に生まれた気泡が、海綿体の如き弾性に富んだ質感です。

玉蜀黍のペースト、馬鈴薯や人参の炒め物、更にはワットと呼ばれる複数の惣菜を大皿に盛り合わせ、インジェラで包み込んで食します。中でも白眉は、玉葱を香辛料入りの澄ましバターギーで炒め、羊肉を赤唐辛子やハーブで長時間煮込んだイェベク・ワット。深みを持った辛さが尋常ならざる発汗を齎します。

営み手にして作り手は、エチオピア出身のワンタサン・ベスタ氏彼が語るには、自分の分を包んで食べるのではなく、家族であったり来客であったり、包んだインジェラを相手の口元へと「贈り届ける」のが食卓を囲む流儀。

「B to C」なる惹句の下に「個人」と「世界」を直結させたIT化が、その間に存在していた「社会」を希薄・喪失させてしまった今、インジェラは触れ合う重要性を改めて教えてくれる得難き逸品です。